



指導案

声だけで表現しよう

1 学習のねらい

自分なりに解釈したことを声で表現するためには、「体」「技」「心」の3つが大切だと分かる。

2 番組活用にあたって

平成20年度版の学習指導要領では、「朗読」が小学校5、6年の読むことの指導事項に位置づけられました。音読が、正しく・はっきり・すらすら読めることを目標とするのに対して、朗読は、音読の目標に付け加えて、読者の受け止めた作者の意図・作品の意味・場面の雰囲気・登場人物の性格や心情を音声で表現することが加わります。

番組では、「体」「技」「心」として、①腹式呼吸でおなかから声を出すこと②間をとること③場面を想像して読むことの3つを提案しています。これらに気をつけて読んでいるうちに、抑揚がついたり、スピードの緩急や声の大きさの強弱などが自然についてきます。冷たい声・温かい声、沈んだ声・張り切った声、柔らかい声・とがった声など声にも表情があることに気づかせたいものです。

大切なのは、そうしようとすることによって、言葉の意味・重み・味わいに鋭敏になることであって、実際に声で表現できているかどうかではありません。お互いの表現を聞き合い、よいところを見つけて褒めてあげることで、表現が豊かになります。

3 指導の流れ

① 音読と朗読は、どこがちがうのだろう。

- ・両方とも声に出すのは同じだけれど・・・
- ・音読は間違えないではっきり読めればよいけれど、朗読は感情を込めて読むのかな。



② サトルの朗読を聞いてみましょう。

1. scene01のサトルの朗読で映像を止める。
2. サトルの朗読は、どこを直せばよいのだろう。
 - ・声にメリハリがないから、もっとはきはきと読む。
 - ・間がないので、場面の雰囲気が伝わってこない。
 - ・会話の部分と地の文の区別がつかない。話している人の雰囲気を考えて読んだ方がいい。
3. 番組の続きを見てみよう。
4. 終わりの読み方は、はじめの読み方と比べてどこが上手になっただろう。
 - ・おじいちゃんを励ましている感じが伝わってくる。
 - ・言葉もはっきりしている
 - ・間の取り方がうまくなっている。



③ 「体」「技」を磨くレッスンを実際にやってみよう。

1. 腹式呼吸でおなかから声を出すイメージをつかんで、早口言葉を言おう。
(scene05部分を使うとよい)
2. 、と 。を意識して読もう。
(おじいちゃんは、ぼくの手をにぎり、おまじないのようにつぶやくのでした。
「だいじょうぶ、だいじょうぶ」)
3. お互いの朗読を聞き合おう。



④ 朗読する時に大切にすることをまとめよう。

「だれが いつ どこで どんな風を感じるか」それを想像して表現することが大切